

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372601163		
法人名	有限会社サカイケアセンター		
事業所名	もみじ園		
所在地	熊本県合志市野々島南原5427-1		
自己評価作成日	H30年11月29日	評価結果市町村受理日	平成31年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成30年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中にあり静かな環境の中にあります。理念でもある「個人を尊重」を第一に、個人のペースやスタイルに合った支援を行い「仲良く、楽しく」を心がけ、笑顔を忘れず安心して暮らすことができるよう一人一人の生活に合わせて支援しています。開設から長く入所されている利用者も多く、職員との関係も長いことから信頼関係も深く、家族のように親しく家庭的な雰囲気の中で生活されています。菜園には利用者が毎日手入れした四季折々の野菜がいつも収穫でき、旬の味を味わうことができます。作る喜び、食べる喜びの2つが楽しめます。また季節の行事ごとに外出や行事食を取り入れ四季をいつでも感じることができます。「地域と共に」とるように地域の方とも交流を深め、自治会の行事、施設の行事にも互いに参加し地域の方にも理解して頂けるよう近所付き合いも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の訪問でも野菜作りを得意とする入居者の手入れの行き届いた畑の畝や、見事にほこった季節の野菜を見る事ができた。また、病院受診のために訪れた家族が、母親が小雨に濡れぬよう傘を差し出す光景に、ホームに入所しても家族の役割や職員の支えによって安心の表情を浮かべられることをあらためて感じる事ができた。運営者である管理者は、自ら食材の購入に出かけ、入居者と職員が食を楽しめる環境に努めたり、共に支援に関わることでホームの現況を把握し、勤務体制や手当などへ配慮し、意欲を持って働ける職場環境に取り組んでいる。2か月ごとに発行される広報誌「すまいる」からも、ホームの日常が見て取れ、家族へは行事予定を記し参加・協力を呼び掛けており、今年も運営推進会議をはじめソーマン流し会、地域レストランでのランチ会など、多くの家族参加が得られている。今後も地域の中で入居者・職員の「すまいる」が継続されることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は簡潔な言葉で表現し、見える所に掲示し、毎月のミーティングでは全職員で唱和し振り返りを行っている。年度初めの運営推進会議では年間目標や年間行事の計画を伝え、理念に沿った支援となるよう日々実践している。	開設時からの理念であり、職員の中に自然に溶け込んでいる。月の会議で原点に戻って振り返り、共有する時間を持ち、運営推進会議等を通じて理念をかみ砕きながら紹介し、地域へ向けて啓発している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板で地域の情報を共有し、自治会にも加入し自治会の活動にもできる限り参加できるように努めている。9月には地区の敬老会、園の敬老会に互いに参加し交流を図った。地域の炊き出し訓練にも参加し、緊急時の情報交換を行った。近隣の障がい者施設の秋祭りにも参加し、交流を図っている。	ホームは当初より自治会に加入しており、回覧板のやり取りを通じて地域情報を収集し、運営に反映させている。隣接する公民館は地域の人々との交流の拠点であり、各行事に参加している。敬老会行事に参加後はホームの敬老会にも地域の人々を招待するなど、相互交流が実現している。他の福祉施設との交流も継続され、ボランティアの来所を入居者が楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア訪問時に地域の方にも参加して頂き、利用者との交流の機会を作っている。運営推進会議の場で、家族や地域の方に施設で行っている活動を報告したり、認知症の勉強会も会議の場で行う等、認知症の理解につなげるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績や施設で行った行事や予定、事故報告、施設内外の研修報告を行い、疑問点や要望等の意見交換を行っている。会議で頂いた意見や要望はすぐに改善できるように努めている。お雑煮のお餅に注意して欲しいとの意見にはお餅は使用していないことを伝えた。また、地域の住民に音楽が得意な方が多く訪問したいとの要望に、敬老会でギター演奏など披露して頂き、交流を深めることができた。	2か月ごとの会議には行政をはじめ地域代表者や家族が参加しているが、毎回家族の出席が多いことがホームの特徴であり、家族の中には会議に合わせて休みをとる方もおられるなど、関心の高さが窺える。事故やヒヤリハット報告の中で、参加者からの「離設はどのような状態をいうのか？」ヒヤリハットと事故の境界についてなど、様々な意見に答えたり、身体拘束についてもホームの姿勢を発信している。地域代表者による情報が敬老会でのギター演奏に繋がるなど、ホーム運営に活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市職員の方にも参加して頂き、施設の状況、利用者の方々の様子等を報告している。会議の場で介護保険制度の変更点や負担割合の変更点など、職員、家族にもわかりやすく説明して頂き、その場で疑問点や意見、要望など意見交換を行うことができた。法改正についても家族も含め理解を深めることができた。	運営推進会議には行政担当者が毎回参加し、入居者の様子を実際に確認してもらいながら、ホームの現状を伝えている。事故報告に対する助言や法改正について参加者にわかりやすい説明が行われている。管理者は書類提出などで役所を訪れ、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束についての勉強会を行い、拘束のない介護に向け、職員一同、意識統一を図っている。玄関の施錠も夜間のみとし、離設行為が見られる時も可能な限り制止せず、付き添うことで対応している。日中は、自由に外へでることができ、畑仕事や散歩、花を眺める等、活動することができる。	職員会議を利用し、身体拘束の勉強会を行っている。拘束や虐待については、職員の精神的なケアも重要として、夜勤明けには夜間帯の状態を共有し、労うこととしている。センサーマット使用については、家族への説明や了承を得ていることを運営推進会議の中でも紹介している。	外出傾向にある方への対応や、菜園での作業を見守りながら入居者の自由な時間を支援しており、今後も変わらぬ対応を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に虐待についても勉強会を行い、施設内での虐待防止に努めている。県内で発生した暴力行為からの死亡事件についての勉強会にも参加し、全職員に復講し、改めて虐待について理解を深め、自身の行動についても振り返りを行った。身体的な虐待だけではなく、精神的な虐待や言葉での虐待についても都度、確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する勉強会を行い、必要であれば相談の上、すぐに活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、契約に関して家族が納得されるまで、不安や疑問点について説明している。入居後も家族の不安や疑問には、いつでも相談を受け、対応している。5月の家族会や変更があった時点で、加算の改定や利用料の変更点について説明を行っている。歯科の往診料金の変更があった際にも負担増の金額や、往診継続の意思についても確認し、了承を得た上で歯科往診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や家族意見箱を設置し、いつでも苦情や意見が出せるようにしている。市役所や国保連のパンフレット、連絡先にも掲示している。運営推進会議でも家族の意見を聞くようにしている。会議終了後に家族同士で談話する時間もあり、職員の対応について不満がある、との意見が聞かれ、すぐに謝罪し、全職員にも早急に伝え、以後気をつけることを伝えると納得された。利用者については日常の会話の中から意見をくみ取るようにしている。市の相談員制度も活用し、月に1度相談員が来園し利用者の意見や話を聞くことで、意見や要望を聞きだし、すぐに対応できるように努めている。	運営推進会議には家族の参加が多く、意見を収集するいい機会となっている。面会時にはゆっくりと話を聞き、要望を確認し運営に反映させている。入居者には日頃の関りの中で言葉を投げかけながら、話を聞くようにしている。また、市の相談員からの情報を入居者の思いを知る有効な手段としている。	今後も家族の意見や要望を引き出しながら、出された貴重な意見は記録に残し、全職員が共有して運営に反映させることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングを行っており、その場で職員の意見や提案を聞いている。それ以外でも何か意見や提案があれば、いつでも相談に応じるようにしている。	毎月の会議で職員は自由に発言し、ケアへの提案や業務改善に繋がる意見を出し合っている。現在パート職を含め、9名の職員が在籍しているが、夜勤者が限定されることから、管理者は夜勤者の話に耳を傾けながら全職員の心身のケアに努める様努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況を把握し、休みや欠勤はチェックし、個々の動きにも目を配っている。仕事の内容や動きに応じて役付けを決定し、責任ある仕事を担当してもらっている。休日希望ノートを活用し家庭環境も考慮した上で、職員の希望に沿った勤務となるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会や鹿本・菊池ブロック研修会には職員のレベルに応じて参加するように呼びかけ、可能な限り参加している。参加後は伝達講習の場を設け、復講を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本・菊池ブロック会議には必ず参加するようにしている。又、同業者との交流の機会がある時には、積極的に参加するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を聞く中で、困っていることや不安に思っていること、生活歴、今まで出来ていたことややりたいことを聞き取り、全職員が必要な情報を把握できるように周知している。周知し理解したうえで、職員が接することができるようにし、新しい環境に少しずつ馴染み、安心して生活ができるように支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にとっても入居してからの不安なことや、困っていること、今まで出来ていたことや行って欲しいこと等聞き取り、よく聞いたうえで施設としてどう対応していくか伝え、家族が安心して利用者のことを任せられる関係づくりに努めている。入居させることに戸惑いがあるご家族とも何度も話し合いを行い、見学にも来て頂き、納得して安心されるまで支援方法を説明した。現在は週に1回面会に来られ良好な家族関係を築かれている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を詳しく聞いた上で、本当にグループホーム入所が必要であるか判断し、入所後は必要な支援を行っている。もし、他のサービスが本人や家族にとって必要であれば、そのサービスを紹介する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴から利用者一人ひとりのできること、得意なことを大切に、畑仕事や食事の手伝い、洗濯物たたみや裁縫等、職員と一緒にできることをしてもらっている。役割をもつことで生活の張りや生きがいにもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでもできるようにしている。施設の行事にはできる限り家族にも参加してもらい、一緒に食事を摂ったりすることで、本人と家族の触れあいの場を作っている。家族が面会に来てゆっくりと過ごせるように配慮しており、職員ともゆっくり話ができる雰囲気づくりに心がけている。行事では家族同士も顔見知りとなり、交流を深める機会にもなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけではなく友人、知人の面会時もゆっくり過ごせるように配慮している。居室内は本人が安心して寛げる環境となるように支援している。以前、生活されていた地域の敬老会に参加された方もおり、本人が希望された際は家族に相談し墓参りをされる方もいた。	受診や面会に定期的に訪れる方や運営推進会議に毎回出席される方など、家族の後押しが入居者やホームに大きな力となっている。入居者の中には菜園担当として見事な季節野菜を育てる方や、得意な編み物で作品作りに精を出される方など、個々の趣味や特技が活かされる機会を作っている。	入居者が昔行っていた新年の初詣を口にされているとのことであり、実現が期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室以外で利用者が一人にならないように、体操したり、一緒にパズルをしたり等のレクリエーションを取り入れ、できる家事手伝いなどお願いし一緒に活動するようにしている。音楽鑑賞も取り入れ一緒に歌を聴いたり歌ったりしている。リビングの席も利用者の性格やその時の状態に応じて、考慮し変更している。リビングやソファ、ベランダベンチなどで利用者同士、会話を楽しんでいる光景もみられている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する時は入院となるケースが多く、入院中は職員が定期的にお見舞いに行っている。都度、経過観察や状況確認を行い、家族とも情報共有し、可能な限りの支援を行っている。残念ながら亡くなられた時には葬儀にも出席し、お別れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に得た、本人のこれまでの生活歴や生活情報、本人との会話の中で希望や意向をくみ取り、できる限りその思いに沿うように支援している。必要な情報は全職員に周知し把握し、支援の方法を検討しています。	職員は入居者が改めて尋ねるとなかなか思いを口にされないことから、普段の何気ない会話の中に聞きたい内容を盛り込み、言葉を引き出すように工夫している。家族の面会も多く来所時には、近況を伝えながら、気づかれたことなどを話してもらうように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活や習慣等があれば、できる限り継続できるように、入居の際にこれまでの生活の情報や本人や家族に聞き取りを行ったりして把握に努めている。病院や居宅からの紹介であれば、必要な情報を得て把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録やバイタルサインのチェック、申し送り等からの情報、一緒に過ごす中で、表情や言動、口調等の観察により、心身の状態観察に努めている。できることは可能な限り自身で行えるように支援し、家事手伝いを取り入れたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会の度に現状を報告し介護方法や支援の経過報告を行っている。その都度、現在の不安や心配ごと、希望を家族からも聞き取り、くみ取るようにしている。本人及び家族の意向と本人の現在の状態から、課題を分析し、ミーティングや担当者会議の場で意見を出し合い、計画を作成している。	計画作成担当者は入居者・家族の意向を優先したプランとなるよう、収集したアセスメント情報や、職員意見から必要な内容をプランにあげている。入居者がホームの一員として、できることでその力を発揮してもらう様、食事や畑作り、趣味や特技の分野の継続に力を入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯と夜勤帯で日々の様子や実践したケア、職員が気づいたこと等、個別記録に記入している。個別記録から情報を共有することで統一したケアの実践や介護計画の見直しにつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢であり、様々な病気や口腔内の問題を抱えている利用者が多い。食の楽しみにつながる口腔内の問題を歯科の訪問診療を利用し、口腔ケア(義歯や残歯のケア)の充実に努め、必要に応じて歯科治療も行っている。義歯を新規作成した方も経過良好である。訪問看護や往診による診察も可能である。また、同系列の家族風呂へ入浴の支援を行ったり、外出時に同系列のデイサービスにて昼食をとることもあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の中学校の福祉体験の受け入れ、ボランティアによる歌や踊り、二胡の演奏慰問を取り入れた。所在する地域の区長、民生委員様による歌やギター演奏の慰問も行い、地域交流の機会となった。消防署による避難訓練や消火訓練、地域の防災訓練にも参加し、交流を図り、地域の中で楽しく、安全に生活ができるようにしている。クリーニングを出したいご利用者様もおり、お店の方へ説明とお願いをし、自身で出すことができるように支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医への受診方法を家族と相談し、定期受診は家族が、それ以外の緊急を要する受診は事業所に対応している。現在の状況を家族の方へも報告し、現状や病状の変化など必要があれば受診報告書を作成し主治医へ報告、相談を行っている。主治医と面談が必要な場合は本人、家族と一緒に職員も同行している。歯科は往診、かかりつけに受診する方とそれぞれであり、耳鼻科や眼科、皮膚科へ定期受診されている方もいる。	本人・家族の希望するかかりつけ医を支援しており、定期受診は家族対応としているが緊急時はホームでも柔軟に対応している。訪問当日も家族が受診のため来訪されており、受診前後に職員と情報を共有される姿が見られた。歯科については往診が殆どであるが、定期的に受診に出かける方もおられる。日々の口腔ケアは義歯の管理を含め、職員が行っており、昼食後に歯磨きへの声掛けや誘導の場面があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルサインのチェック、一般状態の観察を行い、日頃の様子と違うことがあれば、すぐに看護職員に報告し相談している。病院受診時には必要な情報を職員が家族に伝え、主治医に受診報告書を作成し、現状報告を確実に伝えるようにしている。受診後も内服薬変更や指示があれば、全職員に周知し把握を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者の居室を確保し、定期的に病院に出向き、治療の経過観察、現状の把握を行いながら、退院に向けて病院、家族と相談している。入院中、食事が入らない方がいた際には、食事介助の方法を伝え、支援の方法など共有することもあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りに関する指針を説明し、事前指定書にて家族や本人の意向を確認している。まだ実績がない為、看取りとなった場合の往診医の意見も確認した。利用者の多くが看取りを希望されており、訪問看護や往診が必要となった場合には、家族と相談し、職員と話し合い、職員、医療関係者、家族と連携してできる限りの支援ができるようにしていきたい。	入居時に看取り指針をもとにホームの取組を説明し、その時点での意向を指定書で確認している。ホームでの最終を望まれていても、継続した医療が必要となると、医療機関での対応となるため、職員は日頃からホームに出来る事を検討しながら日常の支援に努めている。この夏ギリギリまでホームで対応した後、医療機関で最期を迎えられた事例がある。	高齢の入居者を支えるホームとして、緊急時の対応を含め、看取り支援を考える機会や研修会の開催を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って職員が対応できるように周知している。6月には消防署の協力を得て、心配蘇生法、AEDの操作方法についても勉強会を行い、手順や方法についても再確認を行った。緊急時、目につく所には操作方法を掲示し、慌てず対応できるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に依頼し、日中、及び夜間想定 of 避難訓練や消火訓練を行っている。また、地域の災害訓練にも参加し日頃から地域の方の協力が得られるように取り組んでいる。火災に加え、地震や台風で避難することも想定し、職員同士で車椅子を使用する方、どこから誘導するか等避難方法など確認も行った。	消防署の参加・協力を得、年2回昼・夜を想定し避難訓練を実施している。また、地域の災害訓練に参加し、協力関係の構築に努めている。6月の訓練後は、心肺蘇生法やAEDの操作についても学んでいる。訓練の報告も広報誌の中で紹介されている。	今後も自然災害についても風化させることなく、机上を含め避難の方法を確認する機会を待たれることを期待したい。また、居室のコンセントなど細かな確認をされることを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目線の高さを合わせ、一人ひとりの思いや生活過程を尊重した言葉かけや対応を心がけ、支援している。言葉づかい、声の音量、トーン、大きさにも配慮し、職員間で気づいたときは注意しあい、より良い接遇に努めている。表情や言動等観察し、その時々 of 利用者の思いにできる限り、寄り添えるように努めている。	言葉遣いや声のトーンなど入居者にとって不快にならないよう、共有を図っている。呼称は苗字での対応が殆どであり、会話は目線での対応を心掛けている。入居年数の長い方もおられ、年齢を重ねられてもホームでの生活を生き生きと過ごしてもらえるよう工夫している。身だしなみも大切な尊厳の一つであり、訪問美容や行きつけの美容院の利用、入浴後の保湿など、家族と連携しながら取り組んでいる。個人情報や守秘義務の徹底については、管理者より指導が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を確認した上で、支援を行っている。言葉では希望を伝えられない利用者に関しては、表情や口調、様子を見ながら支援している。様々な活動にも参加は自由であり、希望や決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを職員は把握しており、それに合わせた支援を心がけている。本人の希望、したいこと、できることを本人のペースに合わせて自分でできることは、自分でできるように支援することで生活の張りや生きがいにもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容院を利用しており、カットやカラー、パーマもでき、顔そりをしている利用者もおられる。希望があれば他店に行くこともでき、行きつけの美容室へ通っている利用者もいる。外出や誕生日会等の行事の際は、好きな洋服を選んで着てもらったり、化粧をする方、入浴後に顔の手入れをしている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食や畑で採れた野菜を使った献立やおやつを提供することで、食の楽しみにつながっている。花見や外出時には弁当を持って外での食事も取り入れている。外出には家族の方にも参加して頂き、一緒に食事できる良い機会にもなっている。お正月には手作りのおせちや雑煮、お屠蘇も提供している。又、家族会では毎年近隣のレストランでバイキングを楽しみ、家族の方と交流する機会になっている。野菜を切る、お盆の準備、台ふき、盛り付け、配膳等それぞれできる所を職員と一緒にいき、みんなで一緒に食べながら、楽しく、おいしい食事の時間を過ごしている。食べたいおやつや献立など、すぐに対応できるように努めている。	入居者の育てた野菜は年間を通して食材に活用され、ホームの食事を更に楽しみなものにしている。献立は職員が季節や入居者の好みを聞きながら作られており、正月やひな祭りなどの行事食と共に日々の料理も好評である。現在は食材購入は職員が出かけているが、盛り付けや食事の下準備、畑の野菜を使った切り干し大根や干し柿作りなど、昔取った杵柄が発揮できる場面が作られている。また、ソーメン流しや地域のレストランでの食事など、家族も一緒に楽しんでいる。これらの取組はホームだよりでも紹介されている。	職員も一緒に同じものを摂ることで思いを共有しており、入居者にとって楽しい食事の時間となっている。継続した取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの咀嚼、嚥下状態、好みに合わせた食事を提供し、摂取量も毎食チェックしている。常食、一口大、粥食など主食の量も個別に把握し提供している。水分は毎食時、10時、入浴後、15時、20時に飲み物を準備し、それ以外にも自由に飲めるようにしている。甘酒やジュースなど希望時に飲用されている利用者もいる。なかなか飲もうとしない方には少量ずつ促し、牛乳、アクエリアス、栄養ドリンク、リポビタンDなど希望や状態に応じて取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の往診にて必要があれば方法など相談し指導を受け、毎食後口腔ケアを行っている。歯ブラシを準備し、自分で義歯や残歯を磨いて頂き、不十分な場合は声掛けや介助を行っている。コップや道具も定期的に洗浄、消毒し、義歯も洗浄液にて定期的に消毒を行っている。その際に、義歯の磨き残しの確認、汚れがついていたり磨きが不十分な場合は義歯洗浄を職員が行い、清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間、リハビリパンツを使用している利用者もいるが、日中は布パンツに尿取りパットを使用しトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を記入し、排尿間隔を把握し、時間誘導を行うことで失禁は少なく、トイレでの排泄継続につなげている。	日中は布パンツのみや尿取りを併用しながらトイレでの排泄を支援している。特に男性入居者にはフィット感のあるボクサーパンツが使用されている。ポータブルトイレは使用されておらず、夜間もトイレ誘導やパット交換が行われている。職員は会議や申し送りなど排泄の状況を共有し、個別支援を充実することで、自立の継続や失敗の無い排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり腹圧の低下が考えられ、毎日のラジオ体操、菊ちゃん体操、歩行運動を行っている。排便体操も取り入れている。食事にもできるだけ繊維の多い食品を取り入れ、牛乳や乳酸菌飲料、こまめな水分補給を促している。また、共同生活の中で、介助が必要な方も多く、ゆっくりと着座できるよう配慮し、工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や回数は決めているが、利用者の希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴する、しないは利用者の意思を尊重するが、入浴できる状態で拒否が続く場合は、健康、衛生面を考慮し、時間をずらす、朝に促す等、職員が話をし納得した上での入浴につなげている。男性職員が介助することに抵抗がある利用者には、女性職員が介助を行うように配慮している。	入浴は基本的に午後から週三回入ってもらえるようにしているが、入居者の希望にも可能な限り応じている。拒否の方へも無理強いはしないが、清潔保持の面からも間があかないよう職員間で誘導方法などを工夫している。また、同性介助への希望にも応じれるようにしている。菖蒲や柚子湯の季節湯や法人の温泉施設利用も継続して行っており、入居者の楽しみとなっている。	浴室内や脱衣所に置かれた洗剤については、安全面から保管場所の検討が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を把握し、不眠や排尿状況など把握し、不眠があれば日中の様子を観察し、活動や生活リズムを整える支援を行っている。日中、リビングのソファや自室にて午睡される利用者もいますが、長い時間とらないようにしている。一人ひとりのペースに合わせてゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一人ひとり1回分ずつまとめ、日付や名前を明記している。1回分の薬を必ず2名以上の職員で確認し、介助直前にも読み上げ確認を行っている。本人に手渡し、吐出しや落下などないか、確実に飲み込まれるまで確認している。その都度変更があれば、連絡ノートも活用し職員へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや食事の準備、洗濯物たたみ、畑の手入れや畑での野菜作り等、生活歴からその人のできることを職員と一緒にやっている。毎日散歩したり、作品作りに取り組んだり、一人ひとりが楽しみをもつことができるように支援している。季節の保存食である切り干し大根作りも活動に取り入れた。誕生日の方がいる月には誕生日会を開き、全員でお祝いをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には外気浴を行い、散歩に行ったり、近所のお店で買い物したり、自由に外出できるようにしている。ご家族の支援にて温泉や外食に行く利用者もおられ、お彼岸や命日には墓参りにも行かれている利用者もいる。季節の花見やお祭り参加等の外出には、参加できるご家族には一緒に行ってもらい、楽しい時間を過ごすことができるように支援している。	ホームは幹線道路から入っているため、車の通りも殆どなく天候の良い日は敷地内の散歩やベランダでの日光浴を行っている。季節のごとの花見には法人車両を使用し出かけているが、面会時や広報誌で家族にも参加を呼びかけ、一緒に楽しめるようにしている。また、入居時から畑作業を担当される方や買い物など個々に応じ戸外活動を支援している。温泉や外食、盆・正月の帰省など、家族の協力が得られている。	地域にある福祉施設の秋祭りに出かけたり、別の施設の花火大会をベランダでお茶を飲みながら見物するなど、地域との交流や資源を活用した取り組みが確認された。今後も地域や家族の協力を得ながら入居者が戸外に出る機会を支援いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が管理できる利用者には、管理できる金額が入った財布を自分で管理してもらい、自由に買い物に行ってもらっている。自己管理が難しい利用者は、家族と外出時に買い物されることもあり好みのお菓子やジュース等購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも家族や知人にかけることができる。自分でかけることができない利用者は、職員が代わってかけ話をしてもらっている。毎年、出したい方に年賀状を職員と一緒に作成し、できる方には自筆で文面を記入してもらい、家族へ送っている。家族からも手紙や年賀状が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やベランダにはゆっくり座って外を眺めることができるようにソファやベンチを置いている。リビングや廊下には季節の花を飾り、季節行事の装飾を飾っている。リビングではみんなで食事を楽しんだり、ゆっくりテレビを見たり等できる空間になっている。共同空間はいつも清潔に保ち、気持ち良く生活できるようにしている。	ホーム内には観葉植物や草花、外出やイベント時の写真の掲示から季節を感じる事が出来る。玄関先に飼われている金魚や休憩スペースなどに置かれた椅子など、入居者が寛げる場所が随所に設けられている。リビングホールは、ボランティアによる二胡の演奏会や入居者が踊りを披露するなど、イベント時の会場となったり、廊下を使って流しソーメンを楽しむなど、内容に応じてホーム内の場所を活用している。	ホーム内飾られた掲示物や置物など経年と共に色の変化や傷みなども見られることから、今後は定期的な見直しの機会を持つ事が必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室にて過ごす方、雑誌を読む方、ソファでテレビを見たり、作品作りを行ったり、一人ひとり自由に過ごしている。ソファなどで隣に座るとすぐに利用者同士で会話が弾み交流する機会にもなっている。職員も支援する中で、大きな音や大声など出さないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設で用意しているが、他の物は自由に好きな物、馴染みの物を持ち込むことができる。家族と相談しながら、本人が使いやすい物、今まで使い慣れている物を持って来てもらい、自宅と同じように寛いで過ごすことができるように支援している。	入居の際には本人が自分の部屋として安心して過ごせるよう、自宅で使用していた物、馴染みの品などの持ち込みを依頼している。家族の中には他の居室を参考にされる方もおられる。入居後も衣替えや必要な品、物品の配置など家族と相談しながら進めており、特に入居年数が長くなられた方には、家具の損傷や必要の有無なども確認している。季節に応じた温湿度管理や、冬場の湯たんぽによる安眠支援など個別対応が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーで車椅子の移動もできる。廊下やトイレ、浴室、リビングの必要な個所には全て手すりを設置している。居室の入口には希望に沿って名前や写真を掲示し自分の居室をわかりやすくしている。トイレの表示も大きくし、間違えずにトイレに行くことができるようにしている。		